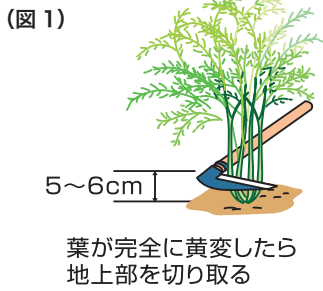


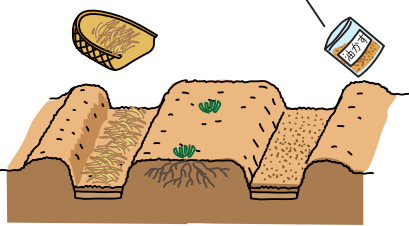


アスパラガスは、野菜の中では最も長命な部類で、一度植えれば10年ぐらいは収穫を楽しめますが、毎年良い若芽をたくさん収穫するためには、冬の手入れを適切に行うことが、ことのほか大切です。

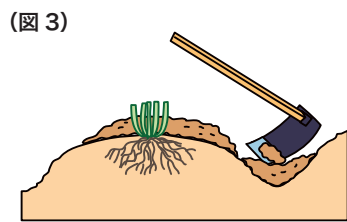
アスパラガスの成長を年間で振り返ると、若芽の収穫を打ち切り伸ばしたままにすると、葉が開いてどんどん丈が伸び、光合成作用が活発となり、秋に入ると同化養分が根に蓄えられ、11〜12月には休眠に入ります。霜が2〜3回降



(図1) 葉が完全に黄変したら地上部を切り取る



(図2) 畝間の通路部分を中耕しながら施肥



(図3) 畝上に土を大きく盛り上げ防寒する

り、葉の黄化が進んでくると、休眠はいつそ深まってきます。

これからの手入れで大切なことは、葉が完全に黄変し休眠が深まったところを見計らって、地際から5〜6cm上のところで茎を刈り取り(図1)、落ちた枯れ葉と共に畑の外に持ち出し、焼却または廃棄します。この茎葉は、アスパラガスの大敵である茎枯れ病や斑点病にかかっている場合が多く、病原菌が茎葉の中で越冬して翌年の発生源になるからです。できるだけ被害葉を周辺に散らさずに、丁寧に掃き集めて処分することが肝心です。

これらの病害が発生すると、数年たった大株でも被害を受けて大減収になってしまいます。

茎葉をきれいに片付けたら、まず、株元に多くの土寄せをしていた場合には土を畝間に戻します。土

寄せが多くなかった場合はそのまま、畝間の通路部分を中耕しながら、畝の両側に深めの施肥溝を掘り、その中に粗大堆肥(発酵度が中程度)と、油かす、緩効性の化成肥料を施し(図2)、アスパラガスの根株を埋めるように、畝上に土を大きく上げておきます。こうすることで根株を防寒できるので、寒さが厳しい地域ほど土を多く盛り上げておきます。(図3)

こうして越冬後の3月ごろ、芽の萌芽に支障のない程度に土を取り除き(寄せ土戻し)、畝間に落としておきます。このとき、春の追肥として化成肥料や有機配合肥料などを、1株当たり各大きさ3杯程度を目安として与えておきます。

このように何度も土を動かすことにより、地面付近に落ちていた雑草の種子の発芽を抑え、除草の手間を省くことができます。

栽培年数が長くなり株元の根茎が過密になり、株全体が浮き上がるようになったら、冬の休眠中に株を掘り下げ、分割して他の畑に株間を広げて植え替えれば、再び勢いを回復させることができます。

肥料・農薬の紹介

水田畦畔の雑草防除に

カソロン 粒剤4.5



11月〜2月散布で、長期間雑草を抑えます！来春の斑点米カメムシの発生を低減します！

【特徴】

- 長期間雑草を抑えます。
 - 粒剤なので、使用がすごく簡単です。
 - ギンギシ・ヨモギ・スギナ・ヤブガラシ等の難防除雑草によく効きます。
 - 平地や傾斜地へも楽に処理が出来ます。
 - 斑点米カメムシが産卵する雑草を枯らすので発生量を少なく出来ます。
- 均一に散布すれば、非常に抑制効果の高い除草剤です！

※「環境こだわり栽培」をされている方は使用できませんので、ご注意ください。

使用方法等ご不明な点は、各営農センターまで気軽にお問い合わせください。

